

# トップメッセージ



取締役 会長執行役員

野澤 宏

代表取締役 社長執行役員

坂下 智保

**当社は2020年5月に創立50周年を迎えました。  
これもひとえに平素より株主の皆様の温かいご支援と  
関係各位の格別のご高配の賜物と心より御礼申し上げます。**

情報サービス産業におきましては、景況感や企業業績の悪化に伴い投資抑制の動きが見られ、製造業やサービス業を中心とした多くの業種において非常に厳しい事業環境となった一方で、コロナ禍におけるテレワークの促進やインターネット利用の拡大、さらに、予めから注目されていたデジタルトランスフォーメーションをキーワードとしたビジネス革新や、新たなデジタルビジネス創造の必要性がより認識されたことによる継続的な投資も行われております。

当社グループは事業環境の変化に迅速に対応すべく、システムインフラ構築分野やネットビジネス分野等の需要の高い分野に重点的に経営資源を投入し、事業ポートフォリオの変革を進めるとともに、以前より当社が重点技術と位置づける「AIS-CRM」分野においても積極的なビジネス展開を図ってまいります。

なお、感染症対策につきましては、お客様や社員を始めとするステークホルダーの皆様の安心・安全を最優先としつつ、お客様への安定的・継続的なサービスの提供に加えてソフトウェア開発の生産性向上と付加価値創出を実現するため、当社の技術力とノウハウを駆使した様々な取り組みを実施し、コロナ禍における事業の拡大と経営の効率化を今後も図ってまいります。

このような活動により当連結会計年度の実績につきましては、SI事業が好調に推移し、売上高は2,409億53百万円（前年同期比4.3%増）となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響によるリモートでの人材採用や教育の実施及び在宅勤務の定着に伴う移動の減少等により販売費及び一般管理費が388億75百万円（前年同期比1.5%減）になり、営業利益は159億72百万円（前年同期比20.4%増）、経常利益は163億43百万円（前年同期比18.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は85億73百万円（前年同期比9.4%増）となりました。

なお、2020年12月期1株当たりの年間配当金は、創立50周年記念配当5円を加えた51円（中間23円・記念配当5円、期末23円）となります。

創業51年目となる2021年は更なる成長に向け、全社一丸となり、中期方針である「ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ」を目指してまいります。

株主の皆様には今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 基本方針

もっと社会に役立つ

もっとお客様に喜んでいただける

もっと地球に優しい企業グループ

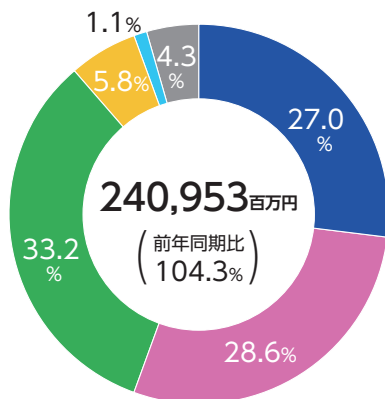
そして「ゆとりとやりがい」

## 中期方針

ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ

## 連結業績ハイライト

### 売上高



■ 組込系/制御系ソフトウェア	65,040百万円 (100.6%)
■ 業務系ソフトウェア	68,977百万円 (103.6%)
■ プロダクト・サービス	79,971百万円 (115.4%)
■ アウトソーシング	14,005百万円 (93.5%)
■ ファシリティ事業	2,653百万円 (91.5%)
■ その他	10,304百万円 (81.3%)

( )内は前年同期比

- 売上高は、ライセンス販売を中心にプロダクト・サービスが好調に推移したことに加え、組込系/制御系では社会インフラ、業務系ではシステムインフラ構築が堅調に推移したことにより、前同比104.3%の240,953百万円となりました。

### 営業利益

15,972百万円

[ 前年同期比  
120.4% ]

### 経常利益

16,343百万円

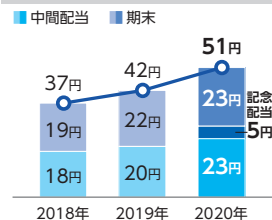
[ 前年同期比  
118.9% ]

### 親会社株主に帰属する当期純利益

8,573百万円

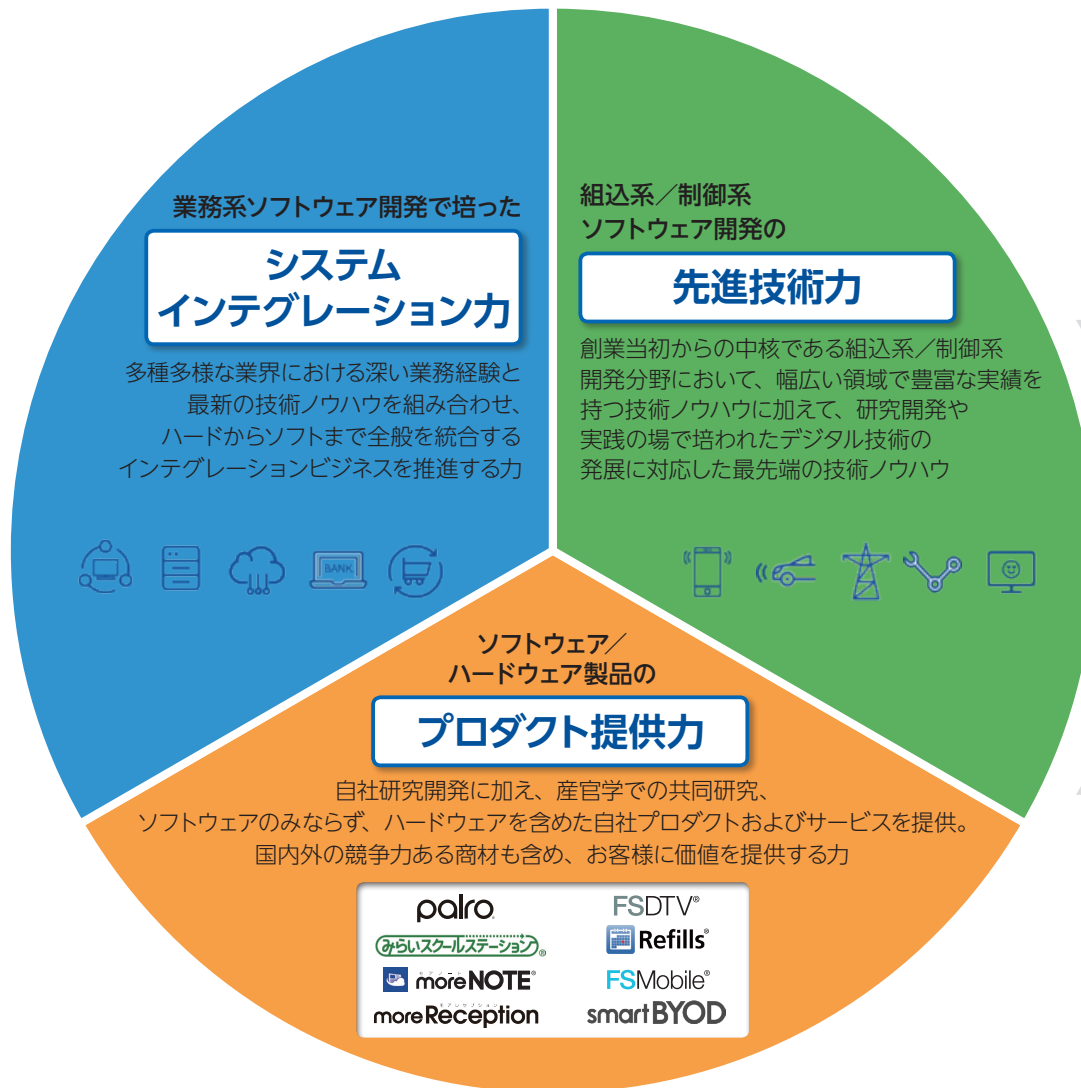
[ 前年同期比  
109.4% ]

### 1株当たり配当金



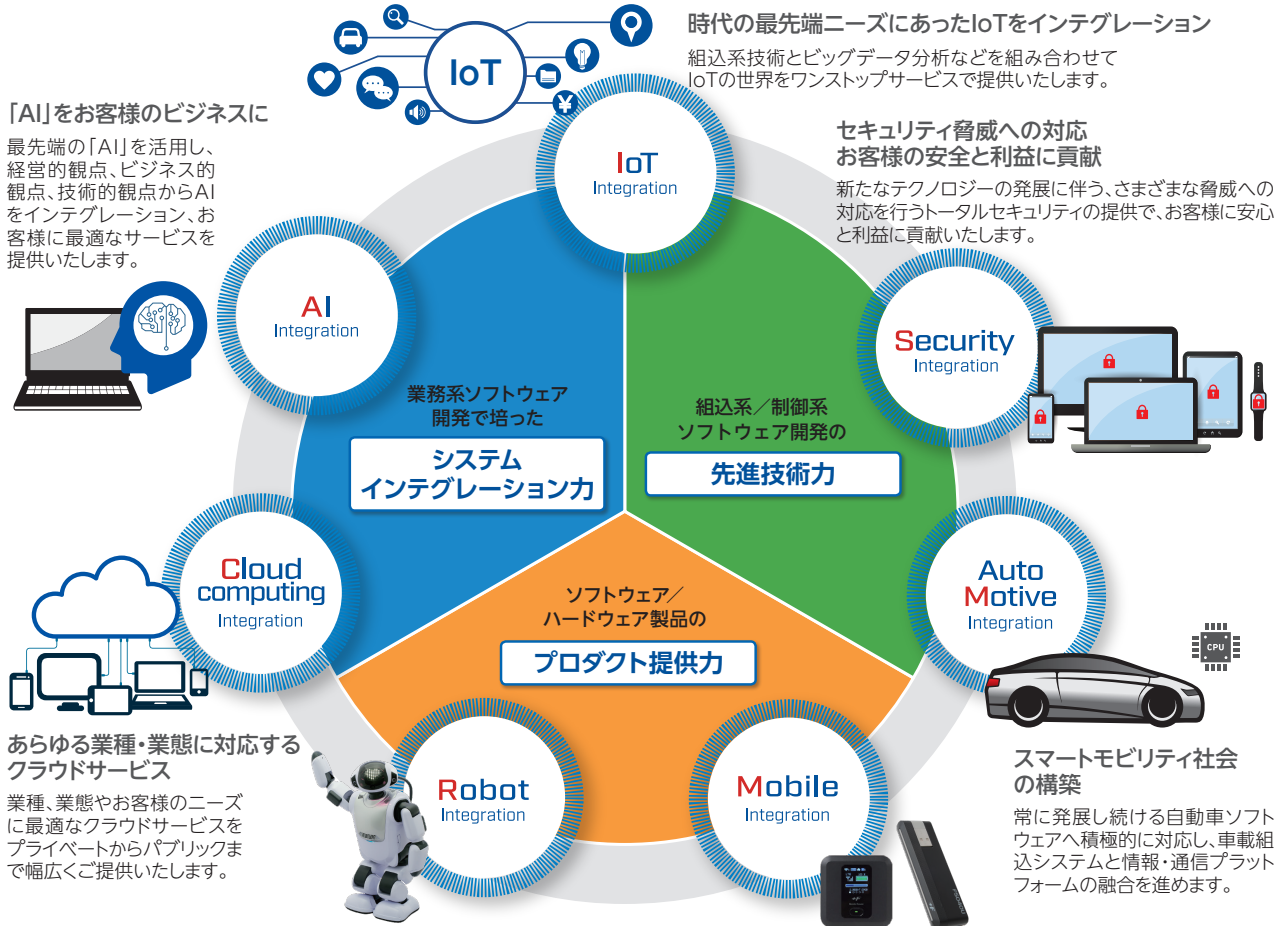
## 事業戦略 ● 富士ソフトの成長を支える3つの強み

創業当初からの中核である組込系／制御系ソフトウェア開発と、流通業・製造業・金融業などに代表される業務系システムインテグレーションサービス。これらは、グローバル競争時代を勝ち抜くためのビジネスインベーションとモノづくりを支えるテクノロジー。この2本の柱に、研究開発や共同開発で培ったプロダクト提供力を加えた3つの強みが当社事業戦略を支えています。



## そして、新技術への果敢な取り組み「AIS-CRM」

新技術分野「AIS-CRM」として、AI、IoT、Security、Cloud、Robot、Mobile&Automotiveを位置づけています。これまで培ってきた技術とソリューションを融合させることにより、今までにない付加価値と新しいビジネスチャンスを生み出します。常に時代のニーズにあったサービスを作り続け、国内外のお客様に最適なサービス、プロダクトをご提供いたします。



AIとロボティクス、コミュニケーションロボットの開発を実現する先進の技術

AIとロボティクス技術を結集したコミュニケーションロボット「PALRO」の活用と産業用ロボット分野を支えるソフトウェア技術で新たな価値を創出します。

さまざまなデバイスで、「いつでも、どこでも、つながる世界」を実現

タブレット、デジタル家電、モバイル、自動車、FA・OAなどあらゆる機器（デバイス）をクラウドと連携し、「いつでも、どこでも、つながる」を実現する世界を支えています。

# 富士ソフトのコーポレート・ガバナンス

## コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは「基本方針」に基づき、「ICTの発展をお客様価値向上へ結びつけるイノベーション企業グループ」を目指して活動してまいります。下記の施策を推進することで、経営の健全性、効率性を確保するとともに経営の透明性を高めていくことによりコーポレート・ガバナンスの充実を図り、経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制の構築を図っております。

- 1 業務執行責任の明確化、事業運営の効率化及びスピードアップ、取締役会をスリム化し意思決定の迅速化・経営監督機能強化を図るため、執行役員制度を導入しています。
- 2 会社としての機関設計は監査役会設置会社を採用していますが、任意の機関として社外取締役も委員として参加する経営委員会（指名・報酬・倫理）を設置し、取締役会に付議する重要事項を事前に審議しています。
- 3 全ての社外役員は、東京証券取引所が定める独立役員の判断基準の要件を満たすとともに、社外の公正な立場から監督及び助言を行うことができ、かつ高い見識、出身分野における豊富な知識と経験をあわせ持っています。

## コーポレート・ガバナンス体制

業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項（現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要）

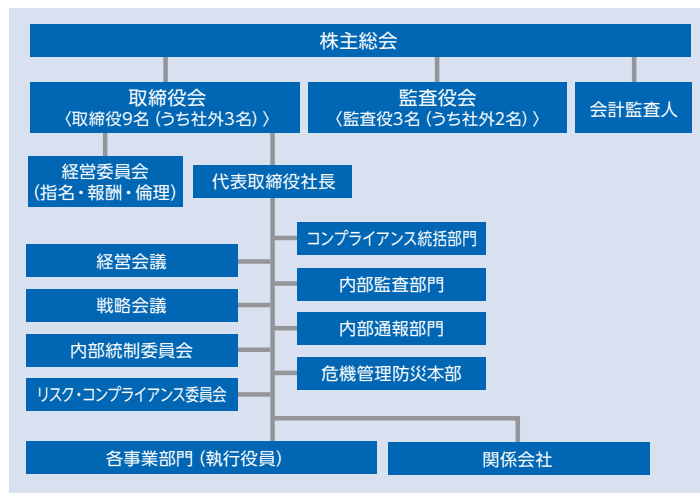
当社は監査役会設置会社であり、法令に定められている株主総会、取締役会及び監査役会を設置しています。取締役会は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員に指定している社外取締役3名を含む9名で構成され、また、社外監査役2名（うち1名は独立役員）を含む監査役3名も出席し、毎月1回定例に、必要に応じて臨時に開催されており、法令に定められた事項のほか経営に関する重要議案について全て決議しています。

取締役会の定める経営方針に基づく、重要な業務執行に係る事項の審議機関として、取締役・常勤監査役・執行役員が出席する経営会議（月2回または必要に応じて臨時に開催）を設けています。また経営会議の審議に資するため、目的別に会議を設け、十分な協議・調整等を実施しています。

特定事項について、目的別に内部統制委員会、リスク・コンプライアンス委員会等を設け、それぞれの所管事項について審議・調整等を実施しています。

その他、執行役員制度を導入し、取締役会の戦略決定及び業務監督機能と執行役員の業務執行機能の分離を明確にするとともに、主要な業務部門には、業務に習熟した執行役員を責任者として配し、迅速な業務執行を図っています。

### ○コーポレート・ガバナンス体制図 略図



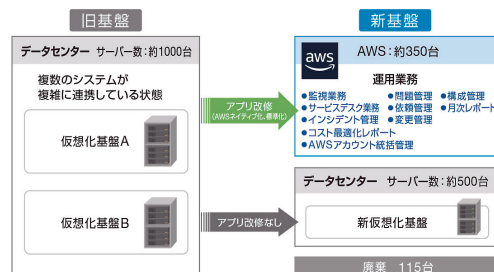
- 当社コーポレート・ガバナンスに関する詳細は、下記インターネットで掲載しておりますので、ご参照ください。  
<https://www.fsi.co.jp/ir/management/7.html>

# 富士ソフトの事業トピックス

事業環境が大きく変化した一年となりました。当社は従来より重点技術と位置づける「AIS-CRM」分野において積極的なビジネス展開を図るとともに、技術力とノウハウを駆使したさまざまな取り組みを行いました。その一部をご紹介します。

## 株式会社蔦屋書店様のシステムをAWS上でリアーキテクト、DXに対応できるクラウドファーストなインフラ環境を実現

当社は、株式会社蔦屋書店様のアマゾン ウェブ サービス (AWS) への移行を支援し、ビジネススピードの加速を可能とするクラウドファーストの基盤を構築しました。株式会社蔦屋書店様は、「TSUTAYA」[蔦屋書店]などの店舗、「TSUTAYAアプリ」[TSUTAYAオンラインゲーム]などのオンラインサービス、さらに店舗とネットを融合した月額定額サービスの「TSUTAYAプレミアム」など数多くのサービスを展開しています。移行前の各サービスのシステムは開発された時期が異なり、独自の改修を続けたことで複雑に連携している状態となっていました。2017年からクラウドファーストを基本としたDX（デジタル・トランスフォーメーション）の検討を開始され、今回、当社のAWS導入支援サービスをご活用いただき、まずは第一フェーズとして、クラウド化基盤の構築に取り組み、15のネットサービスのシステム構成を見直しリアーキテクト（クラウドシフト）を行うことでAWS化を実現しました。当社のAWSの技術や実績はもちろん、周辺システムの知見、経験を十分にご活用いただくことで、シンプルでありながらも、可用性・信頼性が向上したクラウド環境を実現しました。さらに、AWSの充実したエコシステムを活用し、第二フェーズでは全サービスのクラウド化を、第三フェーズでマルチクラウド化を目指しています。



## 「moreNOTE」にブラウザだけで誰とでも簡単に資料を共有・同期できる新サービス「moreNOTE Hello!」をリリース

当社製品のペーパーレス会議システム「moreNOTE」に、ブラウザだけで誰とでも素早く簡単に資料を共有・同期できる新サービス「moreNOTE Hello!」を8月19日（水）にリリースしました。

多くの企業でテレワークや在宅勤務の導入が進む中、Web会議システムなどのコミュニケーションツールが活用されていますが、資料については、簡単かつ安全に情報を共有できるツールが求められています。

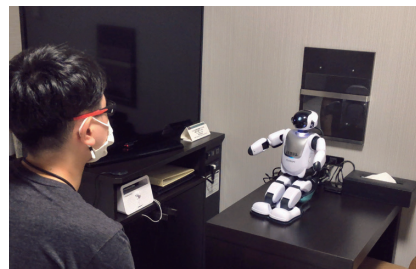
新サービス「moreNOTE Hello!」は、「moreNOTE」のユーザーがホストとなって仮想ミーティングルームを作成し、ゲストにURLとパスワードを通知することで、ブラウザ上で簡単に資料の共有や画面同期を行うことができる機能です。ホストとゲストが互いに資料をアップロードしたり、書き込みやポインターで示したりできるほか、同期を一時停止して自分のペースで資料を閲覧することも可能です。より活発なディスカッションや意思共有を実現できるため、オンラインでの商談や打合せなど活用シーンがさらに広がっています。





## コミュニケーションロボット「PALRO」が感染症対策に向けた実証に参画

東京都の「Tokyo Robot Collection」事業の一環で「宿泊療養施設等の感染症対策に向けた実証」が2020年8月27日から28日にホテルルートイン Grand東京浅草橋（東京都台東区）で行われ、当社のコミュニケーションロボット「PALRO」が参画しました。東京都では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策の1つとして、軽症者等の宿泊療養施設を運営しており、本実証では、軽症者等の宿泊療養施設の様々な課題に対し、解決に資するロボットの実証が行われました。宿泊療養施設に近い構造のビジネスホテルをフィールドとし、配送や警備、清掃等の業務をロボットにより非対面、非接触で実施することで、対応スタッフや宿泊療養者の負担が軽減し、感染リスク低減などの有効性が検証されました。PALROは、ロビーにて施設の説明、客室にて話し相手やスタッフとの連絡窓口を担いました。感染症予防を支援できる可能性と、スタッフとの接触機会低減による療養者の心理的負担を軽減できる可能性が示唆されました。



客室にて会話するPALRO

## サイバー攻撃の「見える化」やセキュリティー監視システムを活用した地域密着型の支援を実施

当社は、経済産業省の補助による「独立行政法人情報処理推進機構（IPA）からの請負事業サイバーセキュリティお助け隊事業」に採択され、岩手県内の中小企業を対象としたセキュリティー対策の実態把握や、サイバー攻撃からの防衛に向けた「見える化」の実証実験を行いました。県内の71事業者が参加され、2020年10月から2021年1月まで支援しました。当社は東日本大震災以降、復興支援活動に取り組み、地域創生事業の一環でもある総務省の「ふるさとテレワーク推進のための地域実証事業」に参画し、大船渡市盛町に大船渡テレワークセンターを開設し運営に携わってきました。今回も地域密着型の支援を実現するため、大船渡テレワークセンターを中心とし、周辺の自治体や経済団体、地元IT企業と連携し、実証実験を行いました。

### “ウェビナー”を積極的に開催し、お客様への情報発信を強化

2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、集合型イベントやセミナーなどの開催の中止・延期が相次ぐ中、当社は“Web”と“セミナー”を組み合わせた“ウェビナー”を積極的に開催しました。YouTubeライブやMicrosoft Teams、Zoomなどのアプリケーションを活用し、各部署の社員が協力しながらセミナーを主催し、次世代の情報発信を行いました。



6月に開催した「富士ソフト インフラセミナー2020」の様相

## コロナ禍でのコミュニケーションの解決策として、仮想オフィスに“アバター”出勤！

当社では、新型コロナウイルス感染症が広がり始めた2020年2月頃より時差出勤や在宅勤務を推奨し、全社的なテレワークに踏み切りました。その結果、対面での会議やミーティングが減り、テレビ会議やチャットでのコミュニケーションが主流になる中、ちょっとしたやり取りや相談が滞るという課題も。解決策として、パソコンの画面に社内を模したバーチャルオフィスを映し出し、自分に見立てたアバターを使ってバーチャルオフィスに“出勤”するソフトウェアを独自開発しました。操作方法は非常に簡単で、アバターを動かすことで、顔を見ながらの雑談や仕事の相談ができ、また、声を掛け合って会議室に入室することで複数人でのオンライン会議も可能に。2020年7月から運用をはじめ、現在、社員約1,000人が試行中です。



## CSRニュース

### 全国の社員に呼び掛け、企業献血を実施

社会貢献活動の一環として企業献血を実施しました。今年度は、コロナ禍のため、2020年10月15日から12月15日の2か月間、全国の献血ルームおよび献血バスでの献血を全国の社員に呼びかけ実施しました。昨年までは、当社のオフィスビルに献血バスを派遣いただき、集団献血を実施していましたが、今年は各自が足を運ぶ形での協力を実施しました。今後も、献血を必要とする患者さんや、医療従事者への支援に繋がる活動を継続してまいります。

### <働き方改革>常時在宅勤務を推進し、「在宅勤務準備金・支援金」制度を導入

働き方改革として常時在宅勤務の推進に取り組んできた当社は、在宅中心で勤務する社員向けに「在宅勤務準備金・支援金」制度を導入しました。

在宅勤務における勤務環境の整備を強化し、在宅勤務時の生産性向上を図るとともに、社員の負担を軽減します。

## FUJISOFT Technical Report ～富士ソフトのIT技術コラム～



富士ソフトの技術者がICT導入を推進されている方々に向け、日々の業務の参考となる情報を発信しています。

▶ <https://www.fsi.co.jp/blog/>





## 株主優待のご案内

当社では、株主の皆様の日頃のご支援に感謝すると共に、より多くの株主の皆様に当社グループの事業に対するご理解を一層深めて頂くこと、また、当社株式への投資の魅力を高め、中長期的に当社株式を保有して頂くことを目的に株主優待を実施しております。

今回は、株主の皆様により以下2点よりいずれか1点をお選び頂き、お届けいたします。

株主の皆様におかれましては、引き続き、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同封のはがき（株主優待申込書）に必要事項をもれなくご記入のうえ、  
2021年9月30日（木）（消印有効）までにお申込みください

贈呈  
内容

当社製品の  
はがき・住所録作成ソフト  
「筆ぐるめ」

DVD版（Windows版）



または

「しいたけ詰合せ」



※写真はイメージです

「たのしく・かんたん・きれい」をコンセプトに、パソコン初心者でもかんたんに使えると評判のはがき・住所録作成ソフトです。

当社特例子会社 富士ソフト企画株式会社  
が、福島県耶麻郡西会津町で、ITによる新しい農業と障がい者就労支援の2つをテーマに掲げ、地元しいたけ農家と共同生産しているしいたけです。

贈呈  
対象

2020年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された1単元（100株）以上を保有する株主の皆様を対象として、株主優待を実施いたします。

同封のリーフレットに記載の「株主優待のご案内」を本招集ご通知に同封しておりますので、ご確認ください。